

鎌ヶ谷市地域福祉に関する 団体アンケート報告書

令和2年8月

鎌ヶ谷市

目次

1	調査の概要.....	1
	(1) 調査の目的.....	1
	(2) 調査設計.....	1
	(3) 回収結果.....	1
	(4) 報告書をみる際の注意点.....	1
2	調査結果.....	2
	(1) 回答する方や貴団体についておたずねします。.....	2
	(2) 貴団体が行っている福祉に関する活動についておたずねします。.....	3
	(3) 活動を通して見える地域の状況についておたずねします。.....	11
	(5) 福祉に関するお考えについておたずねします。.....	17
	(6) 地域の福祉に関するご意見、ご提案.....	20

1 調査の概要

(1)調査の目的

本調査は、「鎌ヶ谷市地域福祉計画」の見直しと次期計画の策定にあたり、各団体が実施している活動の状況や今後の方向性などを把握し、団体や福祉関係者、行政がお互いに協力しながら“思いやりと支えあいのあるまち かがや”を形づくるための今後の地域福祉施策を検討する上での基礎資料とすることを目的に実施しました。

(2)調査設計

- 調査地域：鎌ヶ谷市全域
- 調査対象：鎌ヶ谷市内で活動する福祉関連団体
- 調査期間：令和2年6月15日～6月30日
- 調査方法：郵送配布・郵送回収による調査

(3)回収結果

配布数	回収数	回収率
90件	77件	85.6%

(4)報告書を見る際の注意点

- 回答結果の割合（％）はサンプル数（集計対象者総数）に対してそれぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単一回答（SA：複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフにおいても反映しています。
- 複数回答（MA：複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- 図表中において、「無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が著しく困難なものです。
- グラフ及び表のn数（number of case）は、サンプル数（集計対象者総数あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人数）を表しています。
- 本文中の設問の選択肢について、長い文は簡略化している場合があります。
- 個別の回答団体が特定される内容については省略しています。

2 調査結果

(1)回答する方や貴団体についておたずねします。

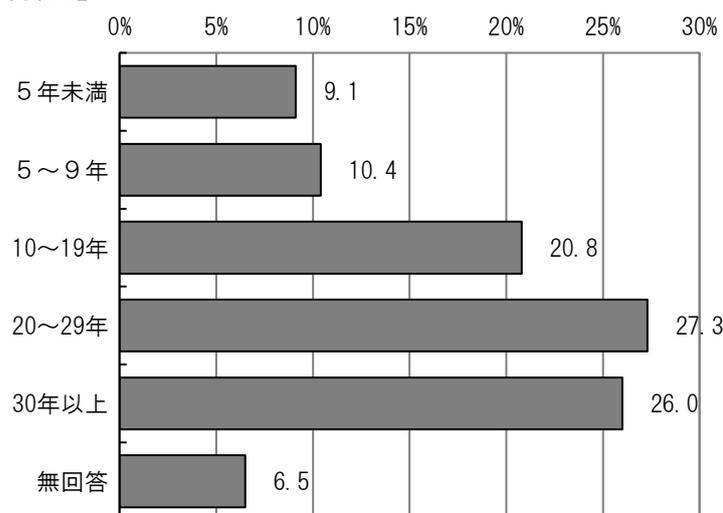
問1 本調査に回答する方のお名前と連絡先についてご記入ください。

※省略

問2 貴団体について下記の項目をご記入ください。

【貴団体の活動年数（令和2年4月現在）】

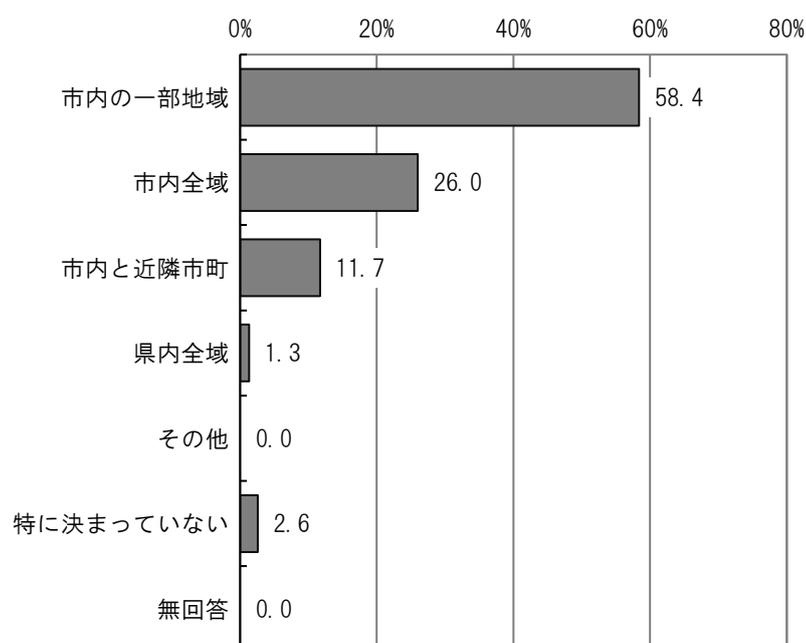
n=77



活動年数については、「20～29年」が27.3%で最も高く、次いで「30年以上」が26.0%、「10～19年」が10.4%となっています。

【主な活動範囲（地域）】

n=77

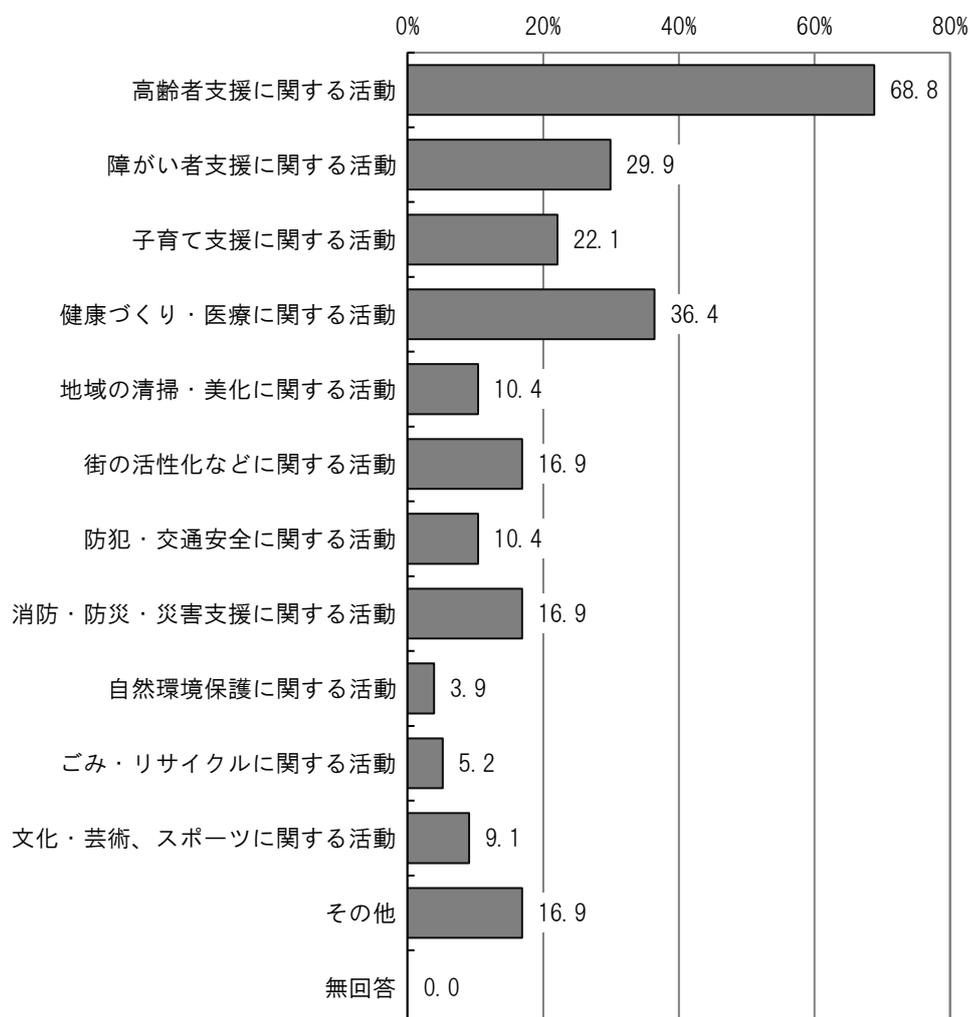


主な活動範囲については、「市内の一部地域」が58.4%で最も高く、次いで「市内全域」が26.0%、「市内と近隣市町」が11.7%となっています。

(2) 貴団体が行っている福祉に関する活動についておたずねします。

問3 ふだんの活動の中で、地域と一緒にいることや、地域にむけて行っている福祉などに関する主な活動分野は、次のどれにあてはまりますか。（あてはまるものすべてに○）

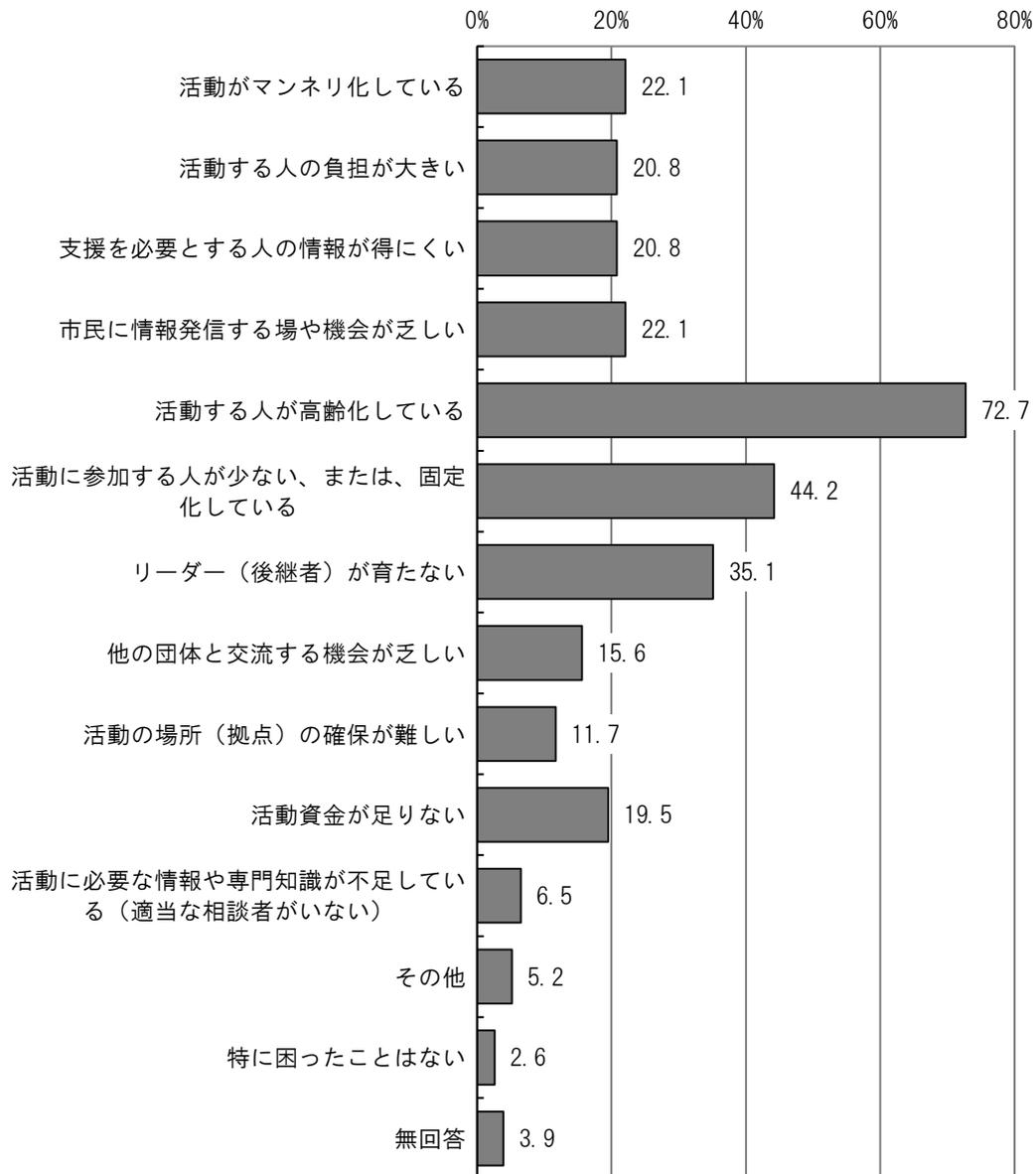
n=77



主な活動分野については、「高齢者支援に関する活動」が68.8%で最も高く、次いで「健康づくり・医療に関する活動」が36.4%、「障がい者支援に関する活動」が29.9%となっています。

問4 現在、貴団体が活動を行う上で困っていることはどのようなことですか。(あてはまるものすべてに○)

n=77



活動を行う上で困っていることについては、「活動する人が高齢化している」が72.7%で最も高く、次いで「活動に参加する人が少ない、または、固定化している」が44.2%、「リーダー（後継者）が育たない」が35.1%となっています。

問4で「13 特に困ったことはない」以外を選んだ人におたずねします。

問5 問4の困っていることの中で、特に困っていることなどを、具体的にお聞かせください。

役員を引き受ける人がいないため、毎年同じ人をお願いする事になる。
会員は高齢者ばかりであるが、一人一人の特技を生かして頑張っています。
会員の高齢化に伴い、活動内容に限界が出ている。新入会員確保が難しく、後継者(役員)を育てることが難しい。時代の流れに適應できるパソコン等を使いこなせる人材が乏しい。
活動する会員の高齢化が進み、集合会場に参加する移動手段に困難が生じている。
高齢化により体力に限界を感じている。
スタッフの高齢化に伴い、おもちゃの出し入れ、子供の目線に合わせる姿勢等に身体的負担を感じるようになって来た事。長期休暇にはボランティアセンターの協力で学生ボランティアが来てくれますが、それが定例の活動に繋がっていきません。
現在3人で活動している。女性2人、男性1人。高齢化に直面している。どなたか1人欠けるとサークル活動消滅の危機に直面します。募集広告出しても応募者がいない。
若い人が入会しないことは行政の考え方の問題ではないかと思えます。先日ある人と話をしていた「ボランティアの入会が少ない。ボランティアはなくなるね」と話をしましたところ、ボランティアなど必要ない程行政が充実してきているのではないですかとの話でした。庭の草取りをして下さい、囲碁の相手をして下さい等の話を行政で処理できるのでしょうか。それともこんな事は無視となるのでしょうか。高齢化はどうしようもありません。
3.支援を必要とする施設(事業)人の情報が得にくい。例年はボランティアセンターさんに必要とする方々を尋ねているが、客観的に若干難があります。市役所のどの部門に相談すべきか、今のところ困っています。
市の広報を使って募集をしても人が集まらない。現在、会員は約20名であるが稼働しているのは約半数。
活動する仲間が年齢を重ねる毎に減っていくも、新しい仲間の発掘が思わしくない。地域の防災訓練や防災講座の時に、会員を募るも実を結んでいない。
現在は特養と社協(地区社協含む)を中心に活動している。以前は市役所の車いすも点検していたが、協力が得られないので止む無く活動をやめた。活動をもっと広げたいと考えているがメンバーが増えない。
スタッフの高齢化。
活動する人が高齢化している為。
地域に根差して活動している割には、活動が知られていない。いつも情報が発信できるフリーな場がない事と、発信するための伝達手段に必要な資金不足。
高齢者人口に対し、職員数が少ない。活動量が多い。業務量が多い。
自治体や企業、学校と交流する機会がもう少し持てたらよいと思うことがある。
企業や店舗、市民の協賛、寄附が減少傾向にある一方、活動する人々の高齢化が進み、結果として活動継続には「外注」(例えば警備、運搬等)が必要となり、資金が不足してきている。
会員が高齢化していて、活動がしづらい。若い年齢の会員が増えていないので療育、教育の分野の情報が得にくい。
福祉的な支援を必要とする方の中には「これまでの在り方、やり方」の急な転換に馴染めないことも多い。インターネット環境の整備や、機器の操作が難しい方もいる中、「新しい生活様式」に則した活動及び活動支援をどのようにするか困っている。
長く活動している方が意見を通し、新しい方の意見に耳を傾けない時がある。
5の活動する方と必要としている方が共に高齢化しているので、皆さんの安全等に心配があります。7の新しい方の参加が無く情報も伝えにくい。
活動する人が高齢化し、後任の次の世代に引き継げない。
参加者はもちろんですが、運営する側の高齢化が進んでおり、会場作りや作業中に事故や怪我がないか心配しています。交通手段がなかったり、駐車場に限りがあるので、思うように人を集めることが難しいです。公民館にエレベーターが設置されていないため、2階に物を運んだり、足の悪い方や車イスの方の利用に困っています。

活動する人が高齢化しており、若い世代の参加が難しい。
ボランティアの方で運営委員が組織されているが、高齢者がほとんどで50才代～の方がいない。若い方だと自分たちの生活に忙しいので、ボランティアをする時間がないので、少しでも若い世代のボランティアとしての運営委員の確保に困っている。高齢化はどの団体も抱えている悩みの一つであり、将来の運営が心配である。
民間ボランティアの為、自主性を尊重するのは良いが、特に、コロナ対策及び、その時期の”行動基準”等について役所の判断基準が分かり難い。(例)コロナウイルス感染症対策本部なのか。社会福祉協議会なのか？市民活動推進課なのか。社会福祉課なのか。どこがメインで判断を頂ければいいのか。この際はっきりしてもらいたい。
5.7に関連して団体の中の役員決めが悩み。聴覚障害者団体と健聴者の団体、平日の活動の出来る人と土・日・夜活動出来る人と、まちまちなので行事設定なども難しい。
月に2回行っている勉強会の部屋の予約が取りづらい。
午前10時～午後3時近くまで開催していたがスタッフの高齢化で会館のテーブルが老人には重すぎ、きつくなっている。参加する人は喜んでくれるので、10月頃から短縮するように皆と話し合いたいと思います。(約20年開催しています)。
6.活動に参加する人が少ない。活動する場所がない。(紅花集会所で月1回行っていたのですが、今年のコロナウイルスの為休みにしている)現在は開放している様ですが人数の制限と消毒に気を使います。ので活動は休みにしています。
活動の中心になるスタッフの高齢化(後継者がいない)。
担当が高齢化していて、活動範囲も狭くなっている。
活動資金が少し足りないです。手作りで昼食を用意していますが、スタッフの手作りと家にあるもので賄っています。
資金が足りない。鎌ヶ谷第2区自治連合会より寄付金があったり(定期的ではない)物品の差し入れとかで行っているのが現状である。
年齢リストがある訳ではない為、顔見知りからの情報、人繋がり情報に頼っている。その為、タイミング良く活動の発信が出来ない。参加者の増加が上手く図れない。
情報発信する機会が少ない。手紙や電話に依存してしまう。出来れば連絡網を作りたい。引きこもりの人が参加する出会いが少ない。
リーダーも高齢となり、活動に負担が多くなっている。活動に対する理解者が少なく、相談する事も難しい。地域がいつまでも健康を目的として、生き生きと生活する事を目的としての憩いの家としているが負担が多く、後継者が育つ事が出来ない。
活動する人の負担が大きく、後継者が育たなくて困っています。又、活動に参加する人が年々少なくなっており、困っています。
市の助成金を増やして欲しい。
高齢者向けの話し合いの場ですが、利用者がマンネリ化、固定化してきている。打開策などについて話し合いを行ったり、市当局に相談もしているが、改善が見られない。
介護予防の為、体操や教室などを行う場所がない。
元気組の方々には気軽に参加して頂いても、高齢者で独居の方や、普段外に出る事が難しいの方々をお誘いしたいのですが、この様な方をどう外に気持ちを向けるか、古くて新しい問題・悩みです。新しい自治会館も大きな集会室は二階になった為、エレベーターもないので、足の不自由な方、特に車イス利用者の来場は難しくなりました。
高齢化が進んでいる(会員)為に内容が年々縮小せざるを得なくなる状況です。
活動に参加している人が他の団体にも所属している為、活動の内容が重なってしまうことがある。新しい意欲ある人に活動に参加して欲しいと思う。
活動するボランティアの年齢が高くなっている。若い年齢の方にも協力して頂き、活動を継続していきたいと思えます。

<p>同じメンバーで長く活動しているので高齢化は仕方のないことですが、新しいメンバーを勧誘するのは難しいです。</p>
<p>令和2年2月18日、70才以上高齢者との懇親会をしました。参加者、高齢者19名、当日欠席4名、ボランティア7名、包括より1名、計31名。上記日に馬込沢地区には243名、会員にお手紙を出しました。年2回(6～7月)(2～3月)会館が小さいので30名前後で丁度です。今年度から民生委員が和田馬込沢から、あおば自治会になり個人情報には教えられないということで、高齢者支援課にお伺いしましたら、それもだめ、良児協会長にTELしましたら自治会長と一緒に担当課に行ったらと言われ、会長は鎌ヶ谷市はとても厳しいからダメだとのことでした。地域の方から民生委員を退任する時、「高齢者との懇親会」は続けて下さいね、と言われています。</p>
<p>役員の成り手がほとんどいない。</p>
<p>地域の友人・知人を介して、生活習慣のことをもっと知り交流を、話題を深めたい。年々高齢化は進んでいます。新会員の入会は(他のサークルでも)なかなかで会の存続を左右する。他地域団体との交流会(代表者)を年1回程設定できますか。交流のキッカケになる筈です。</p>
<p>グループの高齢化(平均年齢70代)ですが、ハイツ内のどの団体も高齢化(自治会、管理組合など)が現実です。それでも活動は発足当時とあまり変わらなく行っている。それでも五年後を思うと解散をとふと思います。市からの補助金を年間35,000円支給されていますが、もう少し頂けたらグループの思いが明るくなるかと思えます。</p>
<p>活動会員、又賛助会員の下支えのお陰さま、活動させていただき、市の行事にも積極的にしていますが、参加者の高齢化・固定化で。でも若い人達とも少しずつ一緒に活動出来つつあります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・会員に必要なコミュニケーションの方法(カウンセリングの基本)、高齢者の心理など基本的なスキルを取得する養成講座の自主開催について講師謝礼等の一時的な資金の確保に課題がある。 ・実例勉強会40名位の収容会議室の確保が必要だが(今現在中央公民館の第4学習室で実施しているが狭い)学習室1の大きさの会議室があればと思う。※問4の12、9と同じ
<p>リーダーになってほしい人には、若い人が何年か経験をしてほしいが、入会する人は、高齢の方が多いため会が先細りしそうな気がする。</p>
<p>ボランティア活動はある面自己犠牲をもとに尽くしているところがあるかと思えます。活動を運営するには資金が必要です。連合自治会が解散した為に活動資金を得る行事が一切なくなりました。活動資金を得るのに私の所では単位自治会をお願いしております。お願いにご協力を得られない自治会もあります。活動についてどこまで理解してもらっているのか疑問に思うことがあります。</p>
<p>コロナウィルスの流行もあり、活動の方向性をWeb、リモートへ変更しなければならず、経験不足のため対応が難しい。</p>
<p>相談窓口同士の連携が上手にはかれないという理由で連携依頼がきてしまうことも多く、支援者間を取り持つ役割になることもあります。また、支援者同士の連携がうまくいかないことで、間にはさまれた当事者の方々から相談が入ることもあり、クレーム処理のような役割も果たすことがあります。地域の底上げには必要だと思ってもいますが、負担は大きいです。</p>
<p>老人会のリーダーとして活動しているが後継者がいないので。</p>
<p>現在私たちのこども食堂は地域にひらけた「鎌ヶ谷こどもだんらん食堂」とより支援を必要とする「だんらんカフェ」の二重構造にしています。その中でより支援を必要とするこども、養育に困難を抱えた親御さんに支援を届けるために必要な体制やつながりができればと思いますが、十分でないと感じています。</p>

問4で「13 特に困ったことはない」以外を選んだ人におたずねします。

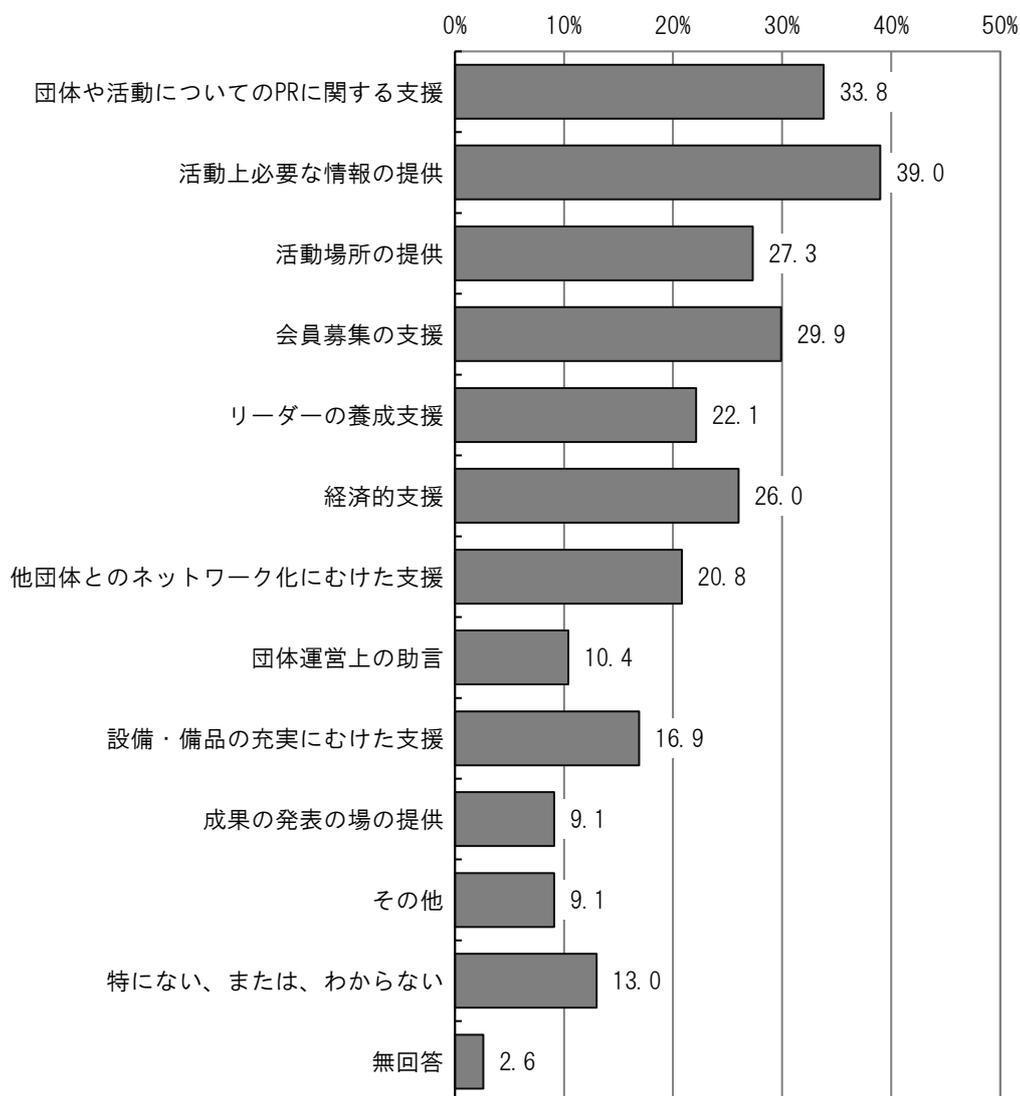
問6 問5の困ったことの課題解決にむけて、どのようなことが必要と思われますか。お考えがあれば、お聞かせください。

日々活動の中で各自がこれまでの経験を生かして、学習、研鑽を積んでいく必要があると思います。
1.目的が競合する他団体との合同活動の企画。2.新入会員勧誘方法と、勧誘対象の工夫。3.ボランティア団体のリーダー養成講座等に会員の参加を促す。
体力維持にスクワットなど各自出来るトレーニングに力を。
広報・ボランティアセンターの手助け(小・中・高等学校の生徒・学生に声を掛けたい)等でスタッフ募集をしたい。
行政が本腰を入れて全ての人が住み良い鎌ヶ谷市を作っていくか考えて頂きたい。それは意見を聞くような問題ではなく政策としてどうすべきかの問題です。
市長の名前でボランティアの募集をする。集まったら各ボランティア内容の説明会をして各々に所属してもらい活動を始める。上手いけば鎌ヶ谷市の宣伝にもなる。(他市に比べて)多分どこの地域でも高齢化、ボランティアをやる人が少なくなって困っているのは同じ状況と思われる。
市とタイアップして、毎年防災講座を組み、出来れば「防災インストラクター」制度を作って防災リーダーの養成をしていくことが有効かと思う。
皆高齢で良くやって下さるけど、後の事を考えると若い方が必要になってくると思います。
資金不足を補う事が可能と考えられるのは、自治会さん、地区社協さんの今以上の助成金などへの支援を頂けたらと。
優先順位を考えて活動。
交流イベントがあったも良いと思う。
国、地方自治体、大企業等の寄附、100%助成。
障がい特性の多様化を個人的な事にとらえず、社会福祉の増進に繋げていく事が必要と考えます。若い会員の方には目先、足元の課題(教育・療育・医療において)が大事だが、先を見透して備えるという考えも必要、大事という知る機会があれば良いと思います。権利より擁護など関心を持って欲しいので研修セミナー等行う事も必要。
数多く示された「新しい生活様式」の実践例の中で、住民の方が各自で出来ること、困難なことの整理と洗い出しが必要と思われる。
活動する人が高齢化している。新しい考え方を取り入れて行きたいので、頭の柔らかい色々なアイデアを持った方の活動への参加。リーダー(後継者)が育たない。一人一人の”やりがい”を大切に、生き生きと活動出来るような環境を整えること。
地区社協の活動を知らせる場があればいいのでは。
若い世代に参加してもらうために、関心のある事業を開催し、理解を求める。
運営スタッフの負担を減らせるよう事業の内容を検討していきたいと考えています。現在、使用している机がとても重たく、移動し設置する際に、大変苦慮しています。もう少し軽量な物や車輪の付いている物に変えて頂けると助かります。
周知活動や魅力ある事業の推進。
各担当者が横の連絡を密にする事。各担当者を統括する部署を作り、各団体に情報発信をする事。
お互いのことを知ろうという気持ちが大事。
推進員の高齢化が進み活動が難しくなってきたので今年度限りで解散する予定です。
自治会員の中で活動してくれる(委員)人を募りたいが、積極的には難しい。
市からの支援金について。利用者様の人数に応じた支援金を望む。
個人情報と言うばかりの中で福祉活動、地域活動に生かされる情報を提示して頂ける方法があると良いと思います。
居場所作りと仲間作りをバランス良く行うことが必要だと思います。

私の談話室ではティータイムを挟んだ前半と後半の時間に分けて、前半は親睦を重視し、フリーケーキング、軽い体操、脳トレをし、後半では毎回講師を招いて、学んでいます。市役所の各課の方々そしてボランティアで参加して下さる方をお願いしています。しかし高齢者と言っても70前半の方と、90才の方とではかなりの知力・体力に差が出てしまいます。年代の差の大きい参加者が楽しいと感じて頂く等、企画・準備、そして新しいノウハウの勉強をしていきます。リーダー向けの市主催の講演会、研修会は有益です。
老人が2階に上がるのがきつい。クーラーが欲しい。
自治会役員の高齢化と固定化。働き方改革などと称し、専業主夫・婦が少ない。従って自治会役員を探すのに苦労している。老若男女の調和の取れた役員構成としたい。
市の対応。今迄にこう言った例がないと新しい事には全部却下。市の新しい対応。時節に合った今の鎌ヶ谷の現状を理解して欲しい。
現在取り組んでいるのは、スタッフの心構えに期待するしかないと思っております。
自治会館や集会所などが活用できたら良い。
残念ながら、支援(企画)側のメンバーの高齢者ですので、若い方をメンバーに加えたい。
現在、若い方(特に女性)も仕事をする様になった為に、昔のように女性も参加して下さる方がなくなりました。この事から女性の方で専業主婦ならば良いのですが、今は難しいです。私達の会以外での交流の場を見つける以外(ボランティア活動している人々)にないのではと思います。
働く現役世代にも参加して欲しいと思っているが、ほとんどの方は積極的ではない。ボランティア活動の難しさを痛感している。出来れば市の取り組みとして、多少の費用(人件費)を出してくれると、参加・協力してくれる人が増えるのではないかと考えている。
グループの(会員の)高齢化ですが、学校のPTA(若い方)に私達の活動を知ってもらいたいことから、思いは学校に伺っていますが行動は取ってません。多忙な若い母親を思うと中々足が出ません。この課題を抱える会と一緒に、学校訪問をとも考えています。
若い人達、子どもや孫達への声掛けを幅広く根気強くしていく。
・市の補助金を活用出来た。また養成講座の講師が引退し後任者がいない。他近隣市のボランティア団体の状況を知りたい。 ・年3回位大きい部屋確保のため、他団体との調整仲介を市・公民館などで調整して頂けると有難い。
市には多くのボランティア組織があり、それに従事し、活動している方も沢山いると思います。その人たちに対する応援メッセージを「広報かまがや」に掲載していただけたら励みになると思います。
現存している沢山の窓口が、それぞれ役割を再認識し、本来の役割をしっかりと果たしながら、上手な連携をしていくことだと思います。窓口や資源ばかり増やしても、機能していなければ無駄になってしまうと思っています。
当団体の活動が地域資源として活用してもらえるために、行政と相談したりできたらありがたいです。

問7 貴団体が活動をしていく上で、市に望むことはどのようなことですか。(あてはまるものすべてに○)

n=77

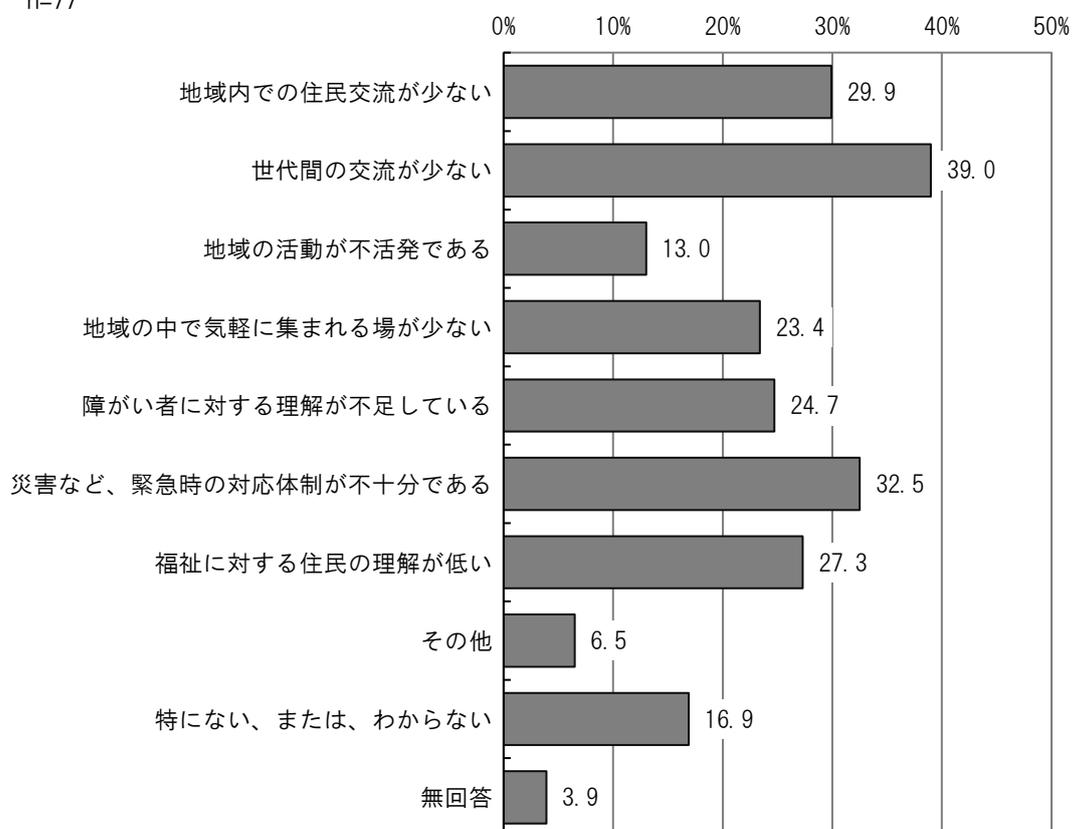


活動をしていく上で、市に望むことについては、「活動上必要な情報の提供」が39.0%で最も高く、次いで「団体や活動についてのPRに関する支援」が33.8%、「会員募集の支援」が29.9%となっています。

(3) 活動を通して見える地域の状況についておたずねします。

問8 活動する中で、地域の中に問題点と感じていることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

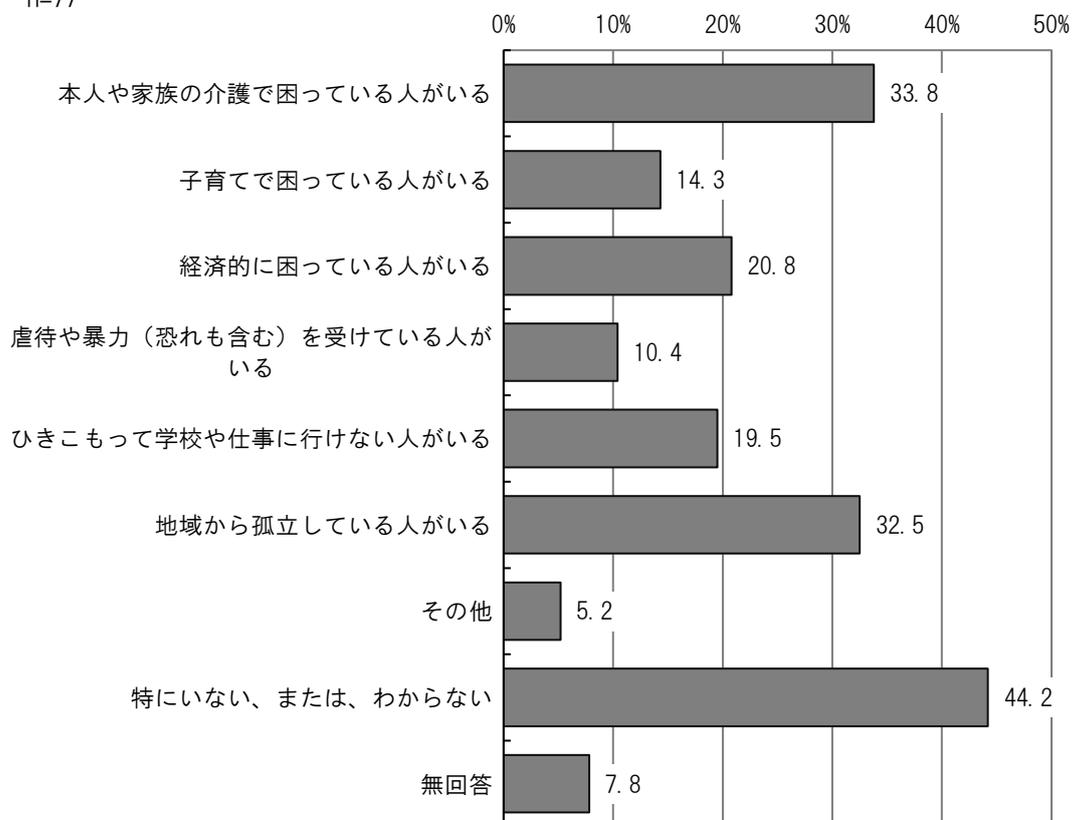
n=77



活動する中で、地域の中に問題点と感じていることについては、「世代間の交流が少ない」が39.0%で最も高く、次いで「災害など、緊急時の対応体制が不十分である」が32.5%、「地域内での住民交流が少ない」が29.9%となっています。

問9 活動する中で、地域の中に次のような支援が必要な人や、気にかかる人（何らかの課題を抱えている人）がいますか。（あてはまるものすべてに○）

n=77



活動する中で、地域の中に次のような支援が必要な人や、気にかかる人がいるかについては、「特にいない、または、わからない」が44.2%で最も高く、次いで「本人や家族の介護で困っている人がいる」が33.8%、「地域から孤立している人がいる」が32.5%となっています。

問9で「8 特にいらない、または、わからない」以外を選んだ人におたずねします。

問 10 問9の支援が必要な人や、気にかかる人に対し、すでに取り組んでいることがあれば、具体的にお聞かせください。また、今後どのようなことが必要と思われますか。お考えがあれば、お聞かせください。

① すでに取り組んでいること

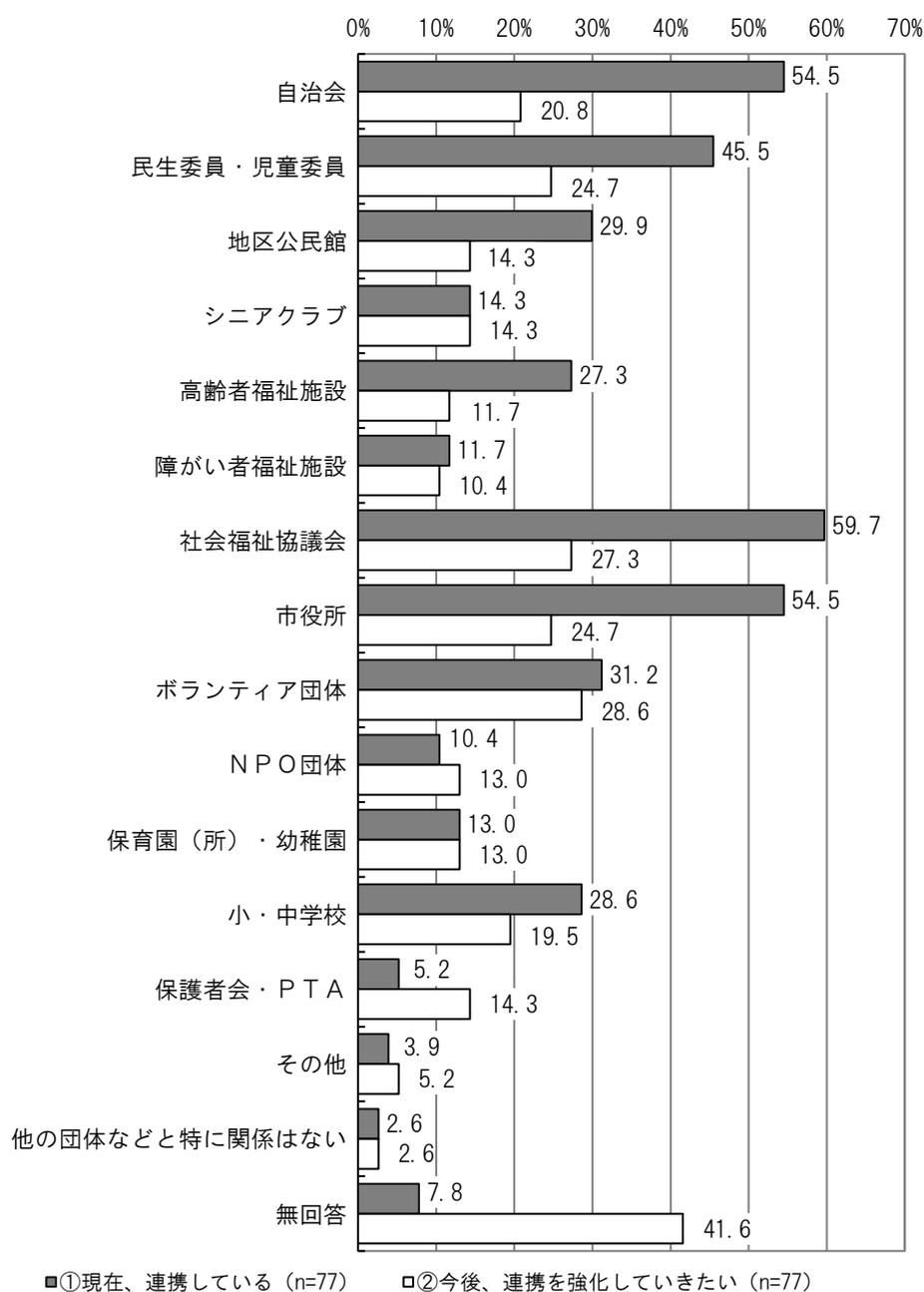
現在の活動を継続することです。
このような人達に向けて、イベントを開く。その中で知り合っ人との和が広がるように行っている。
訪問サポートで外に出られない患者、家族を支援している。オンラインで交流会を開催。
当会事務所を可能な限りオープンな場としている。
行政や相談支援センターと連携し、相談に対応している。
1.2.住民参加型有償ボランティア(ふれあいサービス)。3.生活福祉資金貸付事業。4~6.心配ごと相談所(心配ごと相談、心の相談)。
地域でどなたでも気軽に立ち寄ってもらおうと月に一度、ふれあいサロンを第3火曜日の10時~15時まで開催している。(今はコロナウイルス感染拡大防止の為中止している)。
公民館で月1回のサロンを行っている。体操教室等の開催。
1.福祉講座を開催し、知識を深める。2.若いお母さんが交流を持てる事業を子育て支援センターと協働で開催している。
南部地区社協では年に1回、第四中学校のグラウンドをお借りして、地域にお住まいの方を対象にグラウンドゴルフ大会を開催しています。昨年は第四中学校と鎌ヶ谷市西高校の生徒にも参加してもらい、世代間交流を図りました。他の事業でも南部小学校の生徒と共に活動を行っています。その際、福祉について子供達と一緒に学ぶことができました。
介護については「在宅介護者のつどい」を行い、困り事を伺う機会を作っている。
ちょっとした困り事で来所されたら電話を頂いた方には適切な機関を紹介するなどしています。
市のイベント等に積極的に参加し、市民の人達の理解が広がっているが、市内に住むろう団を知らない聴覚障害者に団体の呼びかけをしたいが出来ない。個人情報開示の壁がある。
引きこもって仕事に行けず日常生活も人付き合いもせずにいると相談があり、健康増進課に相談をしました。が解決することは出来ずにいます。
昼間1人の方にお声掛けをしたりしていますが、やはり自力で活動場所へは行く事が出来ない。
私達は民生委員と活動しています。自分達の担当区域の方達に常に寄り添っています。
民生委員の方が取り組んでいる。
包括支援センターの活用。認知症専門医の紹介。
老人いこいの家としては、そこまではしなくていい。福祉課に連絡と今ここで話をしたいのに。
高齢者の介護や生活問題で介入した際に、DV避難で戻ってきた娘とその子供の問題。8050問題で引きこもりの家族の発達障害が疑われる場合や、介護放棄や虐待につながるケース等、他問題が複雑になっている。一つのセッションでは対応出来ないなので、連携する様に努めています。
訪問による相談支援。
ゴミ箱(10月からは市で無償で回収して頂けるので助かります)。
声掛けをし、制度の周知を図っている。
様子が分からない。
地域で開く、家庭教育ミニ講座に積極的に声を掛け子育てに自信を持っていただくように働きかけています。
相談の対象者を障がい当事者、家族とし、障がいの可能性のある方を含むことや、地域の方々からの相談も受けるとしていることで、間口を広く、あらゆる困りごとを受けられるようにしています。問9の1~6に関わる相談は受けており、必要に応じて専門窓口と連携したり、資源につないだり、つなげるところが無い場合は直接支援をしたりしています。
「だんらんカフェ」事業において食事の提供と共に生活相談サポートを行っている。

② 今後必要と思われること

現在の活動を継続することです。
どんな小さな事にでも対応できる大きな団体が欲しい。
各地域の班長さんからの情報を吸い上げる事を考えれば情報が集まるのではないか。(問9の内容の人を把握する。班長が)。
介護などで困った状況になる以前にコミュニケーションが出来るといい。
出来るだけ多くの支援を必要と見られる人に参加を願いたい、場所と資金不足である。
家から出られず、1人で悩みを抱えている人の支援、話せる場所作りが必要になると思う。
声掛けする人材。交流イベントの増加(その為には予算が必要だが…)。
重度障害者の支援は大変難しいが随時声かけて家族の相談に乗って孤立しない様にしていく必要がある。
「新しい生活様式」やライフスタイル、価値観の変化などから、インターネットの活用は不可避である。一方、高齢や障害等により、インターネットに苦手意識を持つ方も多数おられることから、従来の支援方法と新しい生活様式を取り入れた支援方法のバランスを図っていくことが必要と思われる。
人との話の中で情報を得ることがあるので、地域で知り合いを増やすこと、コミュニケーションが取れる場が必要。気軽に相談できる場所。
すでに取り組んでいる事を市民の方々に情報を今までより広く多数に、今まで参加していない方々への情報を提供すること。
気軽に集まれる場(サロン)の提供。
子供から高齢者まで参加し学べる事業を開催したいと思います。
地域に居住する悩みを抱えている人の掘り出し、及び市の担当部署との情報共有。
高齢者向けの事業を提供していますが、家から出られない方々も多いので、その方々に対して、色々な困り事をどのように支援して行ったらよいか必要なことは何か、模索中です。
一緒に暮らしている母親も高齢者なので今後どの様にして行くのか見守りを続けている。
ボランティアで送迎して頂ける人(グループ)があるといいなあと願っています。
民生委員の方が取り組んでいる。
個人情報が入りやすい地域の関係作りが必要と思います。近所付き合いの中から得られる情報が集約される仕組み作りが出来ると良いと思います。
居場所作りから仲間作りを積極的に行う。
地域の高齢化による町会離脱者などが増し限界。自治会等が多く出てくる事も予測されます。(地域住民の一体化対策支援が必要)。
当方もそうですが、相談支援機能・機関→市から民間委託で担うサポートセンター的な機関が増えています。今後の社会情勢から様々な生活困窮や他問題数ケースが複雑に絡み合い支援が困難なケースと、件数が急増すると思います。サポートセンター同士や委託元を当然含めて支え合う仕組み作りが必要だと思います。
地域住民間のコミュニティ。
1 買物支援体制。2 コミュニティバスの住宅地内運行計画を早める。3 自治会の入っていない方の防災支援体制。
静かに見守ることの必要。
本当に必要な人に来てもらえる縁づくり。
相談を受けるだけでなく、解決に向けて、一緒に動くことが必要な方々がたくさんいます。一緒に動く際にも、コミュニケーションを成立させることすら難しく、時間をかけなければいけない方々もたくさんいます。現在ある相談窓口は「一緒に動く」ことをせず、動いてくれそうなところに丸投げのような状況にしてしまうところが多いと感じています。相談窓口や支援者の意識改革が必要です。
・現在上記の活動が月4回となっているので、365日とまではいかなくとも、日数を増やし、受け入れ可能な状況をもっととっていく必要があると考えている。 ・貧困を連鎖させないための仕掛けが必要だと考えている。

(4)他団体との連携についておたずねします。

問 11 貴団体が活動を行う上で、他のボランティア団体や公共団体などとの連携や協力関係がありますか。また、今後連携を強化したいと思う他の団体や公共団体はありますか。
(①と②の項目に、それぞれあてはまるものすべてに○)

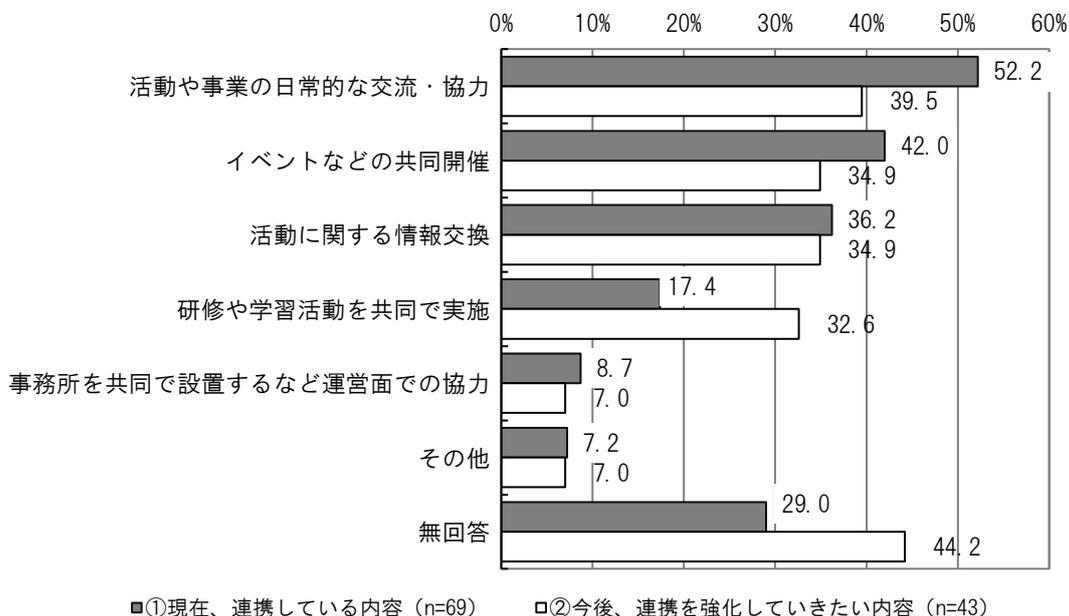


他のボランティア団体や公共団体などとの連携や協力関係については、「社会福祉協議会」が59.7%で最も高く、次いで「自治会」と「市役所」がいずれも54.5%となっています。一方、今後連携を強化したいと思う他の団体や公共団体は、無回答が41.6%で最も高く、次いで「ボランティア団体」が28.6%、「社会福祉協議会」が27.3%となっています。

また、現在連携していないが、今後連携を強化したい団体としては、「保護者会・PTA」が、現在は5.2%、今後は14.3%となっています。

問 11 で「15 他の団体などと特に関係はない」以外を選んだ人におたずねします。

問 12 他のボランティア団体や公共団体などと、どのような内容で連携や協力関係がありますか。また、今後連携を強化したいと思う内容はありますか。(①と②の項目に、それぞれあてはまるものすべてに○)



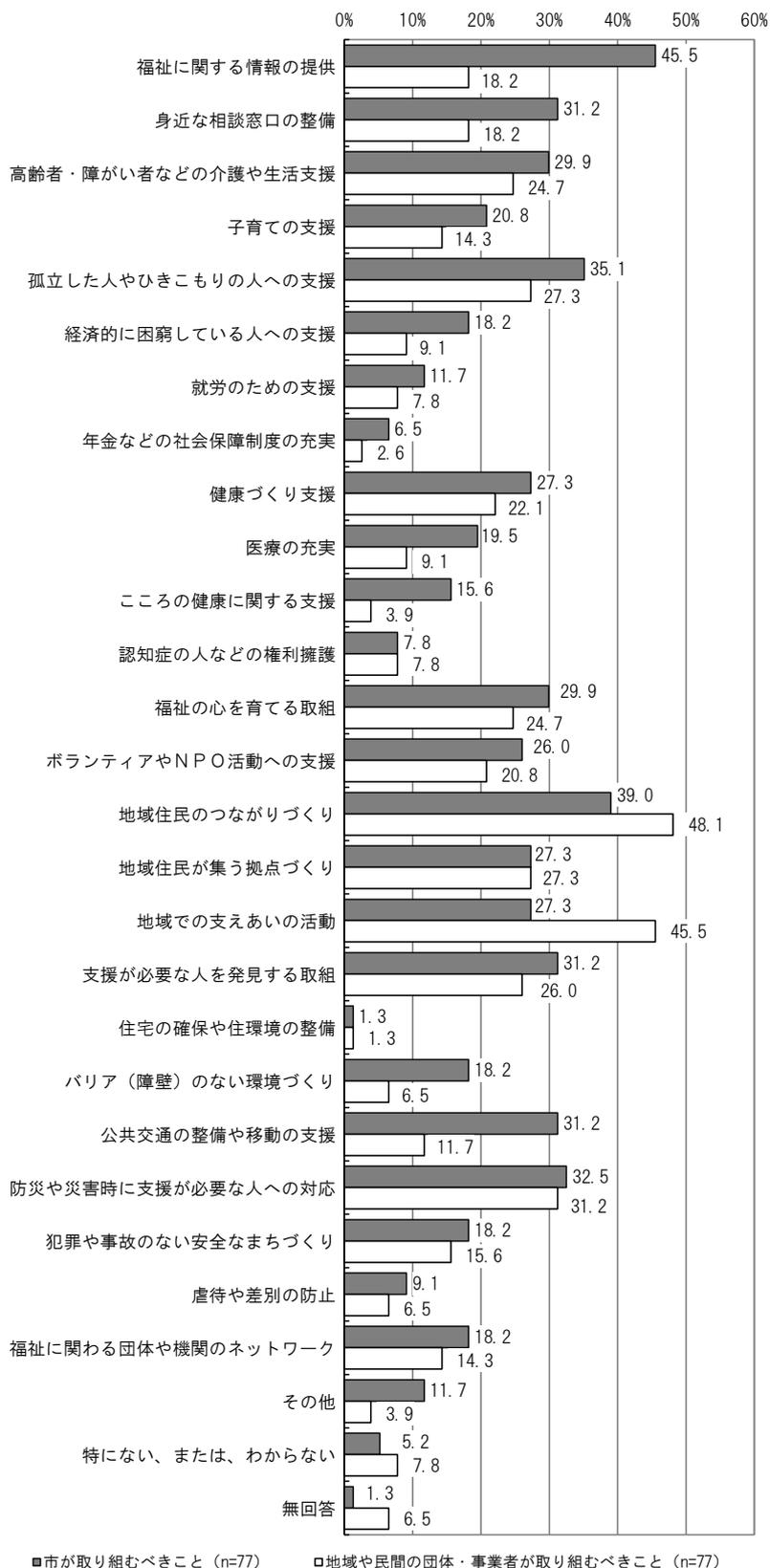
連携や協力関係の内容については、「活動や事業の日常的な交流・協力」が52.2%で最も高く、次いで「イベントなどの共同開催」が42.0%、「活動に関する情報交換」が36.2%となっています。一方、今後連携を強化したいと思う内容は、無回答が44.2%で最も高く、次いで「活動や事業の日常的な交流・協力」が39.5%、「イベントなどの共同開催」と「活動に関する情報交換」がいずれも34.9%となっています。

また、現在連携していないが、今後連携を強化したい内容としては、「研修や学習活動を共同で実施」が、現在は17.4%、今後は32.6%となっています。

(5)福祉に関するお考えについておたずねします。

問 13 あなたは、地域の福祉を充実するために、鎌ヶ谷市はどのようなことに特に優先的に取り組むべきだと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

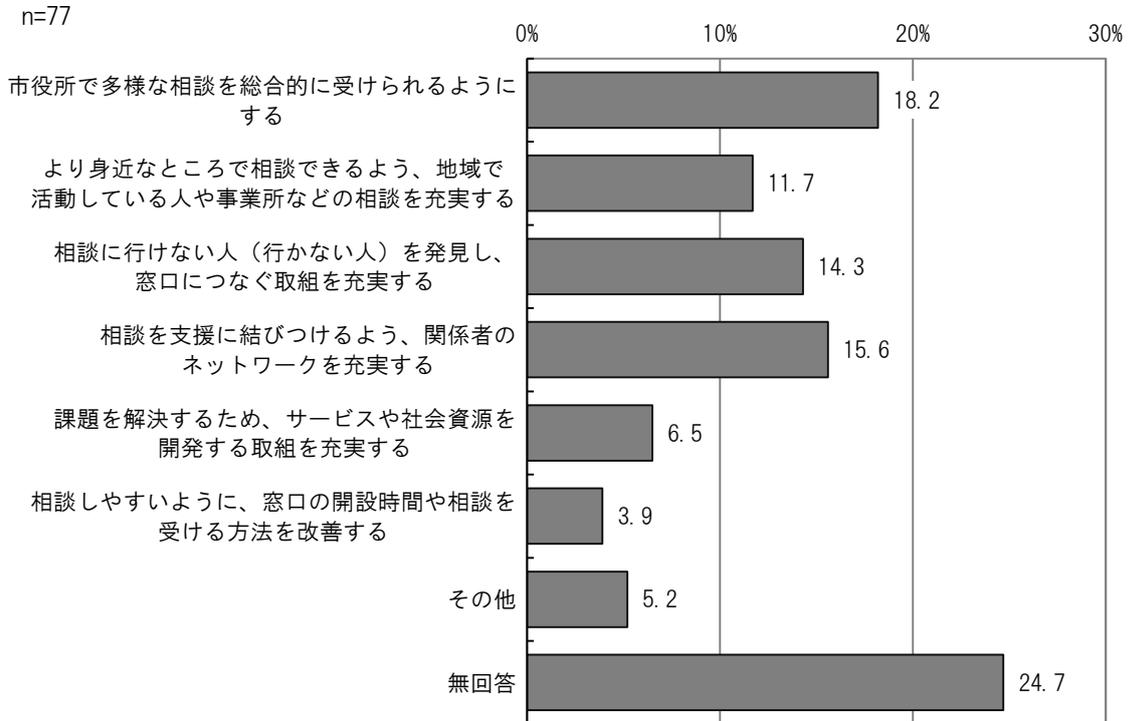
問 14 上記の問 13 の取組で、地域や民間の団体・事業者などが積極的に取り組むべきだと思うものがありますか。(あてはまるものすべてに○)



優先的に取り組むべきことについては、「福祉に関する情報の提供」が45.5%で最も高く、次いで「地域住民のつながりづくり」が39.0%、「孤立した人やひきこもりの人への支援」が35.1%となっています。地域や民間の団体・事業者などが積極的に取り組むべきことについては、「地域住民のつながりづくり」が48.1%で最も高く、次いで「地域での支えあいの活動」が45.5%、「防災や災害時に支援が必要な人への対応」が31.2%となっています。

また、市が優先的に取り組むものよりも地域や民間の団体・事業者などが積極的に取り組むという割合の方が高いものは、「地域住民のつながりづくり」と「地域での支えあいの活動」となっています。

問 15 「地域共生社会」では、多様な生活課題に制度などの枠を超えて横断的に対応する相談支援体制が求められますが、鎌ヶ谷市でそうした包括的な相談支援の仕組みを充実していく上で、特に優先的に力をいれて取り組むべきことはどのようなことだと思いますか。(ひとつだけ○)



包括的な相談支援の仕組みを充実していく上で、特に優先的に力をいれて取り組むべきことについては、無回答が24.7%で最も高く、次いで「市役所で多様な相談を総合的に受けられるようにする」が18.2%、「相談を支援に結びつけるよう、関係者のネットワークを充実する」が15.6%となっています。

(6)地域の福祉に関するご意見、ご提案

最後に、地域住民が支えあい、誰もが安心して暮らすことのできるまちづくりについてご意見、ご提案などがありましたら、ご自由にお書きください。

今後、ますます高齢化社会に突入していきますので”安心・安全”な、そして気軽に相談できる雰囲気福祉施設(包括支援センターなど)のPRを望みます。

地域住民同士、気軽に一声「おはようございます」「こんにちは」「こんばんは」と挨拶出来る環境だと安心、心強いと思います。

全ての住民にボランティア精神が行き渡れば住み良い街になるだろうと思います。

災害時の避難所についての情報不足。万一、洪水等で避難が必要な場合、市で指定した危険箇所の住民の避難先は、はっきりと明示されているがそれ以外の住民はどのようにしたらよいのか情報が不明確。各自治会任せになっているのかどうか疑問だし、不安もあります。災害時、市民の命を守る為、市の支援体制、地域住民の行動を整理して説明、徹底して頂きたいと考えます。

私は他の団体に入っているの中で絵手紙をとお話しがあるとその団体のお手伝いとして何うことにしています。会員も減ってしまい年寄りの集まりなのでご希望に答えることが難しくなってきました。ボランティアそのものが若返ると嬉しいですね。

困っている人が自分で申請する制度の改めは必要があると思います。税金と同じで何でも申請しなければ動かない仕組みを直す。市の方から積極的に困っている人(弱者)に寄り添う行動を起こして行ってはどうでしょうか。

私達の団体は聞こえが悪くなった方へ書いて伝える活動をしています。聞こえない人は「手話を使う」と思われますが、書いて伝えることが一番です。そんな方法があることを広くPRもしたいです。

「地域福祉」と言う点では提案はない(意見を持ち合わせない)けれども「地域に暮らす」と言う点から言えば、お互いが相手を思いやり、温かい社会であって欲しいと願う。

地域の支えあいにはボランティア活動の活性が重要だと思います。市にはボランティアを知る窓口が市と社協の2つあり、社協は福祉に特化しており、ボランティアの相談をしたくてあちこちに行くこととなります。ボランティアに参加する為の窓口を一本化し、気軽に相談できるように出来ればもっとボランティアを行う人が増えると思います。

親睦会などに参加する人は決まってしまうので色々な人に参加出来るようにする事。

今回のコロナ禍のように、他人事ではなく自分事であるという認識を市民一人一人が持てるよう環境が大切である。そのために十分なそして優しく常に情報の発信と一人一人に寄り添った丁寧な説明が必要では。宜しくお願い致します。

電球交換とか一品程度の買い物、視力障害者の代読など時間はかからないけれど、すぐに支援が必要な困りごとを地域住民で手伝えるようになるといいと思っています。自治会に加入していない人も増えていると聞きますので、加入、未加入に関係なく誰でも協力し合えるような地域作りが必要だと思います。南部地区や東部地区では孫の手やちよいボラなどの有償ボランティアがありますが、協力会員の方も高齢と聞きますのでもう少し若い世代の方にも参加してもらえるような取り組みが必要だと思います。

今後鎌ヶ谷市民の高齢者人口の増加に伴う、生活支援体制の充実が求められる。高齢者の方々は情報インフラの活用に疎く、困った時に必要な情報を得にくい。外部から困窮者への直接支援が届きにくい。民生委員の方が年に1回程度の訪問や、聞き取り程度では実態が分からないのでは。地域で身近におられる高齢者を支え合い活動を支援する体制整備が求められる。又、子育て世代の生活困窮者に対する地域での支え合い活動支援も同様である。

福祉については対処法ではニーズに追いつきません。「日々の楽しい交流」から、地域ネットワークを重点的に構築し、その結果として信頼関係が出来て初めて「支え合い」の社会関係資本が充実するのだと思います。従って交流イベントを支える仕組みが最も重要だと思います。

障害者(知的・身体・精神・発達障害)が街に出て、買い物や遊びなど自由に楽しめる街作りが出来たら良いです。道路の整備、歩道の確保など必要です。誰でも思いやりを持って接する心のゆとりがある暮らしが出来ると良いと思います。健康面で弱い人達には医療の充実が必要で、訪問看護の仕組みの充実が望まれます。

<p>緊急事態宣言や「新しい生活様式」の明示により、住民活動にも変化が求められています。一方、住民活動の担い手は高齢の方も多く、社会の大きな転換に戸惑う様子も見られます。自由な活動は発展の基礎であると思われませんが、あまりにも大きな変化を伴う場合、住民の方々と共に考え、試行することも大切と考えます。引き続き密な情報共有をお願い致します。</p>
<p>地域住民の繋がりやコミュニティ作りが必要(空き家を使ったサロン作りを是非進めて頂きたい)。</p>
<p>鎌ケ谷市には地区ふれあい員という良い制度があるのでもっと活躍出来る場があるといいのでは、と思います。</p>
<p>あまりにもテーマが大きすぎる。まず、福祉の充実の為、鎌ケ谷市ボランティア団体との意見交流の場をより多く持つ事。(それによって各団体及び運営者の考え方が分かり、地域の発展に繋がるのでは。)特に前述の様にコロナのこの時期に何も無いのは疑問。</p>
<p>障害者や高齢者のいる町が自然と思えるよう、小さい頃(小学校)からの福祉の学びの場が欲しい。ちょっとした声かけの出来る町が豊かな町。</p>
<p>このアンケートの結果、そしてそれをどの様に役立たせたかの結果もまとめて解答者(回答者)に報告すべきです。それはいつになりますか。解答が欲しいです。</p>
<p>私の地域も高齢者の方が多いです。仲良くやっている方は良いのですが、心配されたりするのを嫌う人がいるとどうしたら良いのか今困っています。こういう人はいざという時はほっとく訳にもいかないですし、こういう人々が周り人達と仲良く出来るには。</p>
<p>今後、ますます高齢化社会に突入していきますので”安心・安全”な、そして気軽に相談できる雰囲気福祉施設(地域包括支援センターなど)のPRを望みます。近くに事務所の設置がありますが、活動内容の分からない高齢者が多いです。</p>
<p>地域の住民の方の福祉に対する関心の低さが気になります。関心を持って頂ける様なアナウンス方法等のご指導があればと思います。</p>
<p>市役所には様々な相談窓口が開設されている。気軽に相談出来ると思うし体制は出来ている。問題は住民にある。自治会のイベントや行事に参加することにより知り合いの出来、皆で支え合い協力してやれることが実感出来るかと思います。又、回覧板等についても、対面にて渡しましょと呼びかけるが変わらずポストに。対面することによりお隣さん、世代間の交流も出来、支え合えることも感じられることもある。</p>
<p>高齢化が進む中、支援する側も高齢者になる現状が見受けられる。高齢者も頑張りますが、次世代の中で後継者育成する方策を考えて頂きたい。高齢者の健康サークル育成、リーダー育成等相互に支え合う体制作りも必要と思います。</p>
<p>地方分政における市民が主役であることを自覚し、にぎわいの街作りや生きがいの街作りを積極的に行う。</p>
<p>コンパクトシティの鎌ケ谷では、住民同士の挨拶も比較的スムーズに行われ、広報等を通し、行政の連絡もしっかり取れていると思います。鎌ケ谷は交通の便、商業施設にも恵まれ、また野菜等の直売所も数多く住みやすい地域だと思います。こんな中でゆりかごから墓場迄行政のみに頼るのではなく、住民一人一人が市民の責任としてボランティア参加を希望します。無関心な市民でなくお節介ババアが多いなんていうのも住民が支え合う礎に近いと思います。行政と市民が近いというのも鎌ケ谷の良い所だと思います。</p>
<p>「まちづくり」に行政と自治会の相互依存が増えているように思う。情報交換や交流を密にし、信頼関係の醸成をさらに深めて欲しい。</p>
<p>住み慣れた地域でいつまでも元気で過ごしたいと願う人が多い。それが願いと思う人が多く、健康が第一と思います。そして、憩いの家の重要性も理解出来る。実現して、活動を行っていく上で、問題が発生しても相談する場も無い。真剣に活動するのに向き合い、頑張っているつもりでも頭の痛い問題が多い。もっと話し合い、生き生きと楽しく活動できる事が出来るならば後継者も育つのでは。</p>
<p>近隣住民の付き合いが少なく特に世代間の交流が非常に少なく心配です。地域の繋がり作り支援お願い致します。</p>
<p>市役所はマニュアル通り。今の世の中はマニュアル通りには行きません。多種多様な人間関係、事情があるのです。電話すればたらい回し。市役所で働く人は自分の身の安全を優先、新しい事にはチャレンジしません。市はあてにはなりません。それが8年間やってきて感じた事です。</p>

地域包括ケアシステムに取り組んでいます。協議がスムーズに進展していません。しかし、基本的に大事なことだと思っています。この地道な活動がいつか花を咲かせるのではと期待しています。

日頃の近隣機関との連携支援等の際に、鎌ケ谷市の福祉計画の評価と実情が違う、という厳しいご意見を頂くことが増えています。最近特に近隣病院の医療ソーシャルワーカー様やケアマネージャー様等の相談支援を専門に担う方々から、低所得や身寄りがない単身者の方が救急搬送されたりした場合に、鎌ケ谷市の相談支援体制と医療費を保障する制度が機能していない、社会福祉課に相談しても、個人情報保護とか他法優先とか持ち出して対応出来ない、と病院に丸投げで入院費が請求できず病院が泣いているケースが続いている。生活保護を受給して市のCWが介入しているケースでも生存権や人権が守られていない、等とお叱りを頂くことが続いています。他市町村では自治体が介入して支援するケースが、鎌ケ谷では支援がなされない。困った時だけ病院を頼って来るが、病院側が困っているケースには相談も助言すらもらえないので、「支え合いとは程遠いと思います。」など相当厳しいご意見を頂くこともあります。市内全域に起きた問題を把握している訳ではないので、一体何が起きているのかは分かりませんが、複数の機関の複数の相談支援業務の方からご意見や苦言を頂いております。ケースバイケースで、人相手の相談支援業務ですから、勘違いや行き違いもあることと思いますが。確かに福祉計画の評価項目の中に「生活保護」行政に関わる取り組みや、評価指標が全く無く「無収入や低所得で単身者や外国人などの」生活困窮者の医療等の支援を要する生存権の保障＝「公的扶助」の検討・評価が抜けている様に思います。ひとつの機関で問題解決を図るのが難しいケースが多いので、現在の方策の中で抜け落ちている点などを共有の上協議して、鎌ケ谷市に足りない対応策を講じる様な機会が持てると良いのではないかと思います。また、コロナ情勢もありますが、昨年度は一度も策定委員が顔を合わせる機会もありませんでした。折角出来上がった評価システムが形骸化しないことを望みます。

私の住む地域に限って見ますと、自治会にもかなりの高率で加入していますし、まとまっている様に思われますが、超高齢者住宅地であって自分のことで精一杯で中々共助の環境作りが大変です。各人が元気な時と弱者の立場に立てる環境作りが必要です。支え合う社会は元気組が弱者を庇うだけでは長続きしません。プライバシー重視、個人情報保護の社会環境(雰囲気)が強く、気軽な両隣ではありません。「向こう三軒両隣の助け合い」の環境作りが必要です。古くて新しい問題です。住宅地も二極化で、幼稚園児や小学生のいる若者の世帯と、70・80才代の高齢者宅があります。この高齢者と孫と云える子供達との接点作りの企画を考えたいです。高齢者が元気をもらい、子供達へ大人の良い刺激を与え、人と人との繋がり、人の暖かさ、助け合うことを育むことが出来る、そういう事業を考えたいです。

最近、他者と接するのを嫌がる若い世代が増えている。支え合えるようにする為には、なぜそうなのかを皆で考え、出来ることを実行していく必要があると思う。

個々の得手を大切に、地域に参加する。

地域での支え合いが自治会、包括支援センター、民生委員が中心に組織されている様子。私達まで情報が伝わらないし、相手にしない。残念に思う。

市が一生懸命「地域住民が支えあい誰もが安心して暮らす町作り」を求めても実態は人と人との心を繋ぐ自治会そのものの組織率は低下の一方でなかなか歯止めがかからないのが現状であります。今の時代自分さえよければと言う風潮があることは否めない様な気がします。この時代を築いたのは私達大人です。その結果とても考えられない若者の一部であるが、働かず舌先三寸で高齢者から多額の金を騙し取るという社会になり、その様な子供を育てたのは私達大人であることを忘れてはならない。この様な社会構造を変えるには時間がかかるが、当然学問は大事であるが、教育現場で社会規範(道徳)を説くことが支え合う社会作りにつながるのではないのでしょうか。

「縦割り」の意識を「横断的」な意識に変えていくことが重要であると思います。

支援の中で「心」をはぐくむ視点を取り入れ、受容的支援、長期的ビジョンのある支援を行っていただけると良いと感じました。

鎌ヶ谷市地域福祉に関する団体アンケート報告書

編集・発行 鎌ヶ谷市 健康福祉部 社会福祉課

〒273-0195

千葉県鎌ヶ谷市新鎌ヶ谷 2-6-1

TEL 047 (445) 1286

FAX 047 (445) 2113

E-mail syafukusyomu@city.kamagaya.chiba.jp